

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.23〉

＜岬③ 小学校歌＞

岬小（吉田衆一校長、157人）は、1918（大正7）年10月1日、宇部村立岬尋常小学校として、宇部村「緑が浜」と呼ばれた静かなこの地に開校。当時の小学校は宇部尋常高等小学校（現・上宇部小）など3校しかなく、人口増加に伴い同校の創立が決まった。48（昭和23）年には戦後の学制改革により、岬小に改称された。

校歌

- 一 新しき 光たたえて 朝空は
今ぞまねくよ 新文化
若き命の はつらつと
ああ ひらけ この栄光
われらの岬 岬小学校
- 二 朗らかに 自由たずねて 園深く
真理の泉 汲みつがん
燃ゆる力の たくましく
ああ つくせ この努力
われらの岬 岬小学校
- 三 限りなき 使命果たして 感激の
歴史につづる 誇りもて
伸びる精神の 烈々と
ああ きずけ この伝統
われらの岬 岬小学校



岬小の校舎

歴史や伝統継承に「誇りもて」

1948年制定、成長の指針を表現

同年には開校30周年祝賀会を挙げる。同時に校歌が制定されており、節目を記念して作られたと推測される。作曲は小郡町（現・山口市）出身で神原中と阿知須中の校歌も作曲した原田彦四郎さん（東と京音楽学校卒）、作詞は桐原正利さんが担当。歴史の中で育つ児童たちの指針が表現されている。

3番まである歌詞は「新しき 光たたえて 朝空は」で始まる。他校の校歌には、地域の自然などが盛り込まれていることが多いが、同校の校歌には全く無い。一方で、3番には「歴史に誇りもて 伸びる精神（こころ）の烈々」とあり、子どもたちが歴史と伝統を受け継ぎながら新しい時代を切り開いてほしいという願いが感じられる。曲調は快活で生き生きとしたリズムとメロディーで構成されている。「県内で人口流出が問題となっている中、校歌が郷土への愛着が深まる一つのきっかけになれば。小学校を卒業し、やがて進学や就職で県外に出ても、校歌を懐かしみ、恋しく思っ地元に戻って来てほしい」と願う。

されており、覚えやすく、小学校らしい元気あふれる楽曲だ。

校歌は入学式、卒業式、始業式など学期ごとの節目に加えて音楽の授業でも歌われるが、ここ3年間は新型コロナウイルスの影響で歌唱の機会が少なかった。吉田校長は、今後さまざまな場面で校歌を歌うシーンが増えればと考えている。